

GK情報レポート

【2007年発行】

vol. 14

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. マグネシウム 日本機械学会にて研究発表
2. L M E を訪ねて
3. GKの切断販売
4. GK製品の製造範囲 銅ブスバー
5. 権田金属の沿革（第12回）『第一期移転時代』
6. 相場情報『2007年第4四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～13）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. マグネシウム研究発表会

2007年9月10～12日に日本機械学会2007年度年次大会が関西大学で開催されました。私は、そのなかの技術開発レポートにおいて「双ロール鋳造によるマグネシウム合金板の製造」というタイトルで、当社がおこなってきた研究開発のこれまでの成果の報告を行いました。

当社は報告のタイトルにあるようにマグネシウム合金薄板の製造方法について開発を2002年から行っています。

マグネシウムは実用金属の中で最も軽いため（アルミニウムの2/3）利用したいと考える人は多いのですが、加工性や耐食性などが悪いため広く使われてはいません。特にプレス成形の材料になる薄板は製造するのにとても手間がかかるため、市場にはほとんどありませんでした。

そこで当社は溶湯を回転しているロールの間に流し込み直接、薄板形状で製造できる双ロール鋳造法をマグネシウムに適合するように改良を行い、従来よりも10倍以上の速度で薄板を製造できる設備を開発しました。

これにより低コストで薄板を製造できるようになり、さらにこれまでは難しかったアルミ含有量の多い合金を利用することで耐食性についても解決しました。

アルミ含有量が増えると加工性が悪くなってしまいう合金の特性がありましたが、組織レベルでの品質コントロールをおこなうことでアルミ含有量の少ない合金と同様の加工性を実現しました。

そこで2007年に量産設備を導入し、今年末からは量産体制に入る予定で現在、その研究開発を行なっています。

発表会場には大学の先生をはじめとする研究者の方や自動車メーカー、同業の方などがおり、多くの方々に当社の発表を聞いて頂くことができました。

また、会場には当社が製造したマグネシウムの板（t0.6、t1.5XW400XL1200）の現物を持参して、参加者の方々に実際に見て頂きました。多くの方にとって大きいマグネシウムの板は珍しいらしくとても興味深くご覧になっていました。

発表後に設けられた質問時間には様々な質問を頂き、この点でも関心の高さがうかがえました。大阪工大の羽賀先生に助けをもらいながら、なんとか無事に終わらせることができました。

今回学会に参加したことで多くの方々に権田金属工業の事を知って頂けたことも良かったと思います。

他のマグネシウムについての研究報告なども聞けて、新しい技術やマグネシウムの今後の展望などを知ることができたこともとても有意義でした。

世間では韓国のメーカーがマグネシウム薄板の量産を開始したという情報なども聞かれ、マグネシウムについての関心も高まっているようなので、当社も早く量産が軌道に乗るように、これまで以上に頑張らなければいけないと感じました。



権田金属工業株式会社
マグネシウム部 大野 大

追記

社団法人日本機械学会

1、 役割

技術社会の基幹である機械関連技術に関わる技術者、研究者、学生、法人の会員から構成されています。

講演発表会、講習会、研究分科会等を開催し技術者の情報源、研究発表、知識向上の場を提供しています。

また技術者の地位向上の場、社会に質の高い情報を発信する専門家集団として社会貢献する機関です。

2、 組織

明治 30 年（1897 年）に創立、会員数約 40,000 名
日本の学術学会として、最大級の会員数を誇ります。

2. LME を訪ねて

今年の7月、家族とロンドンを訪れた折、最終日7月30日にLME（ロンドン金属取引所）を見学しました。

以前訪問したときよりも厳重になったセキュリティーを通過して、12時過ぎに二階の見学者用の部屋に着くと、下の取引ルームではちょうど銅の取引が行われていました。活気のある様子です。案内してくれた商社の人の話でも、価格や出来高も増えているため、以前よりも活発な取引が行われているそうです。



上の写真が、LME の取引風景です。主取引員が座っている赤い椅子が円形に配置されているのでリングと呼ばれます。リングメンバーの資格を持っている会社だけが、取引に参加できます。後ろの壁際には電話が並び、そこに受話器を持った人がいて、外部との連絡をしています。椅子に座っている主取引員の後ろには助手がいて外部との取次ぎをしたり取引終了後相手との取引内容の確認をします。写真奥の高くなった椅子に座っている人は、場の立会人で、監視などを行っているそうです。「LONDON METAL EXCHANGE」の看板の下にある記号は、垂鉛を表し、今取引が行われていることを示しています。取引時間はわずか5分間。ここで決まった価格が世界の非鉄金属の取引価格の指標になります。

5分間のうち、初めの2,3分は互いの腹の探りあい、静かなままですが、最後の2,3分で声を出したり、手の特殊な合図が飛び交い、俄然あわただしくなります。そして、終了のベルが鳴ると同時に取引は終了し静けさが戻ります。

そのまま次の金属の取引のため残る人もあり、交代する人や、席を外して次は出ない人もいます。こうした取引が日に前場2回、後場2回の合計4回づつ行われます。前場の2回目の終了価格が、特に「SETTLEMENT PRICE」と呼ばれて、指標として重要視されます。参加メンバーの数は、取引される商品（非鉄金属7品目とプラスチック）によってかなり変わります。取引量も多いことから、

銅はもっとも参加者が多く、取引も活発な様子でした。

LMEが入っているビルは、ロンドンのシティーの中にあります。

私ども一家は身なりも旅行者然としていましたが、ちょうど昼時の通りを行きかう人々は、男性はダークスーツにネクタイ、女性はワンピースやスーツ姿で颯爽と歩いている人が多く、さすが世界の金融市場の一角を占めるだけあり、働く人も生き生きしてかっこいいと、感心してしまいます。

英国では経済成長が長期に渡って続いているそうですが、シティーでは英国らしくはない斬新なスタイルの高層ビルが何棟か建っており、ここでも景気よさと、新しい時代を取り入れていく柔軟さを感じさせます。

< 為替レートについて >

今回の旅行では、円の弱さ（ユーロや英国ポンドの強さ）をつくづく感じさせられました。ロンドンではタクシー料金だけはそれほど高いとは思いませんでしたが、地下鉄が、約 1,300 円（5 ポンド）など、ホテル料金をはじめ物価の高さには辟易します。ちょっと前までは東京の物価は世界一などと言われていましたが、いつの間にか、日本の物価は先進国の中では非常に安いものになったようです。日本では、円安は善、円高は悪というように一部マスコミや学者を中心にいわれることが多いように感じますが、本当にそうでしょうか。英国のポンドが高いのは一説には、ロシアのオイルマネーが大量に流入しているためといわれます。ロシアと英国は政治的にはギクシャクしているようですが、経済面での結びつきはかなり深いようです。英国にオイルマネーが流入しているとすれば、それは英国、特にその金融市場に魅力があるからです。

一方日本はどうでしょうか。日本の貿易収支の大幅な黒字を考えると、それでも円安になるというのは、貿易収支や投資収支の大幅な黒字を上回る大量の資金が、日本から海外に流出しているからです。日本の金利が低すぎるということもあるでしょうが、やはり、日本国内に資金を呼び込む魅力が欠けているということではないでしょうか。早く自国の通貨が強くなることを喜べるようになりたいと思うのですが。



記者 権田 源太郎

3. 切断販売について

当社がメインで製造、販売している銅丸棒、黄銅丸棒は業界ではいわゆる太物といわれるサイズです。太物サイズは需要家様をご要求の長さに切断された銅丸棒、黄銅丸棒を必要量のみ、その都度購入される調達方法が主流となっています。

当社ではある程度の量がまとまれば在庫品太物サイズ（銅丸棒：110φ～、黄銅丸棒：100φ～）を長さ15mm～切断販売いたします。

※ 最低ロット100kg以上（品種・サイズ関係なく、トータルで100kg以上）

また長さが4M、5Mのものでは流通便で運べない場合がある為、切断して欲しいというお問い合わせも最近増えてきています。そのため当社では在庫品の定尺のもの（銅丸棒：18φ～100φ、黄銅丸棒：50φ～95φ、銅ブスバー：在庫品サイズ P7参照）を二等分や四等分に切断販売いたします。

※ 1本全量購入の場合。

※ 最低ロット100kg以上。

また、当社で行なっていないカドミレス黄銅棒太物サイズの在庫切断販売については、在庫切断販売を業務とされている問屋様のご協力を得て、カドミレス黄銅棒太物サイズの在庫切断販売を行なっております。

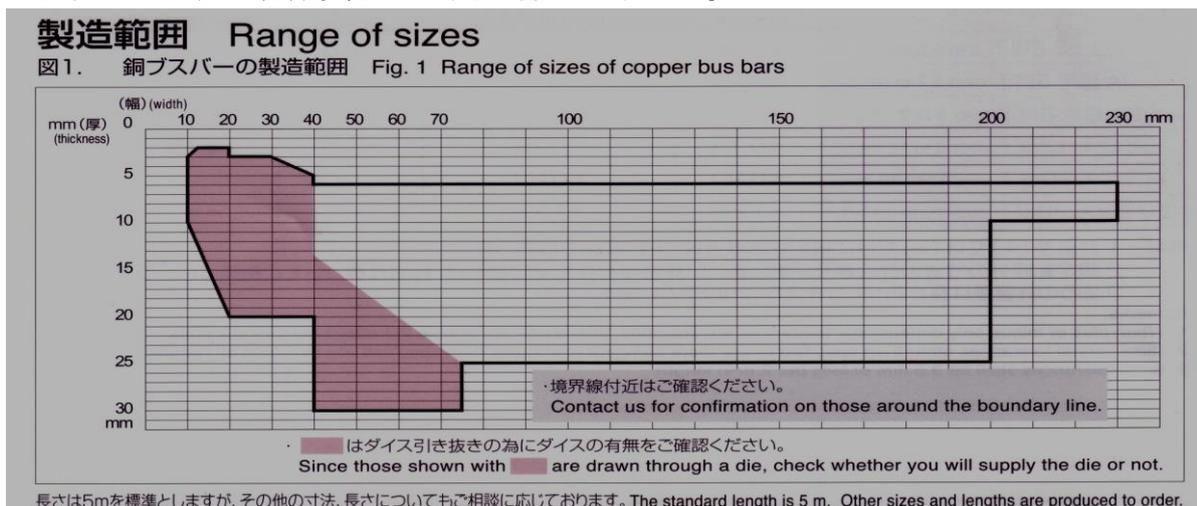
カドミレス黄銅丸棒を在庫・切断販売している問屋様は以下の通りです。

関東地区	横浜伸銅株式会社	神奈川県横浜市神奈川区神奈川 2-10-15 TEL 045-461-0941
	株式会社 東新	東京都墨田区東向島 3-12-1 TEL 03-3614-0600
甲信地区	諏訪金属株式会社	長野県諏訪郡下諏訪町 10616-228 TEL 0266-28-3360
東海地区	水野金属商事株式会社	愛知県豊田市駒場町田戸 51-1 TEL 0565-57-5311
関西地区	橋本産業株式会社	大阪府大阪市生野区巽北 2-3-5 TEL 06-6751-6424

記者 工藤

4. 銅ブスバーの製造範囲

下記が、権田金属における銅ブスバーの製造範囲です。
 厚さ 2～25mm／幅 10～230mm／長さ 5000mmが標準サイズです。
 幅が 40mm以下のサイズは作業工程が引き抜きの為、ダイスが必要ですが、
 幅 40mm超のサイズは冷間圧延ロールの為、ダイスが必要なく、中途半端な
 サイズでも自由に製造できます。 サイズ例／8×45・10×85・12×155 など
 又、長さも標準の 5000mm以外にも柔軟に対応できます。
 まずはお気軽に営業員までお問い合わせ下さい。



ブスバー在庫サイズ(常時製造しているサイズ 単位ミリ)

厚さ	幅	厚さ	幅	厚さ	幅	厚さ	幅	厚さ	幅
3	20	6	15	8	30	10	75	15	50
	25		20		40		100		75
	30		25		50		125		100
4	20		30		60		150		125
	25		40		75		200		150
	30		50		100	12	50		200
5	20		75		150		75	20	40
	25		100		200		100		50
	30		150	10	30		150		100
	40		200		40		200		150
	50	8	20		45				200
	75		25		50				

長さの標準サイズは5000mmです。※上記以外のサイズは別途オーダーになります。

記者 高橋

5. 権田金属の沿革

沿革（第12回）

第一期工事と移転（昭和34年）

第一期で相模原に移設するのは溶解工場（350坪）、圧延工場（450坪）、仮食堂（80坪）、更衣室・浴場（30坪）としました。

横浜には本社事務所と細物工場（引抜工場）、仕上工場を残す形にしました。

その第一期工事を急ピッチで進めることになり、昭和34年に着手しました。

溶解、圧延工場の建設に当たっては、圧延機前後のチルチングテーブル、連続加熱炉、大平ロール圧延機、小型三段ロール圧延機、巻取機、タンデム圧延機などの設計を日本コンサルタント（株）に委託しました。

溶解工場には黄銅電気炉2台（80KW）を移設し、数年後に東芝製2トン電気炉を導入しました。銅の反射炉は6トンに拡張し、材料挿入を半自動化したり、圧延工場には圧延機本体を移設し前後のチルチングテーブルは人手を半数にすることにしました。

こうして昭和35年1月移設後の操業を開始しました。

マグネットクラッチが小型すぎて芯が狂ったりタンデム圧延機据付に失敗するアクシデントもありました。その後は順調に稼動し昭和35年5月10日に落成式を挙げるに至りました。

80周年記念誌「あゆみ」より

6. 相場情報

1、電気銅建値推移

7月・・・1,000円スタート（7月平均 1,019.5円）

8月・・・1,020円スタート（8月平均 930.4円）

9月・・・930円スタート（9月平均 927.2円）

10月・・・980円スタート

2、LME在庫状況及び需要状況

LME指定倉庫在庫は今年1月末には20万トンを超えて、しばらく20万トン台で推移していたが、再び中国を中心とした需要の増加、また各地でストライキなどの不確定要素により3月半ばから徐々に在庫は減り続け、5月には14万トン台、7月に一時は10万トンを下回った。その後、在庫は増加傾向に向かい9月末には13万トン台まで回復。

オリンピックを目前に控え中国の需要は落ち着きを見せ始めた。しかし、大規模なインフラ整備が必要不可欠なインド等の新興国の需要や採掘場のコスト増加、環境問題により中国鉱山の閉山がでてくる可能性が強まっていることから、今後も在庫量は低水準であるとの見方が強い。

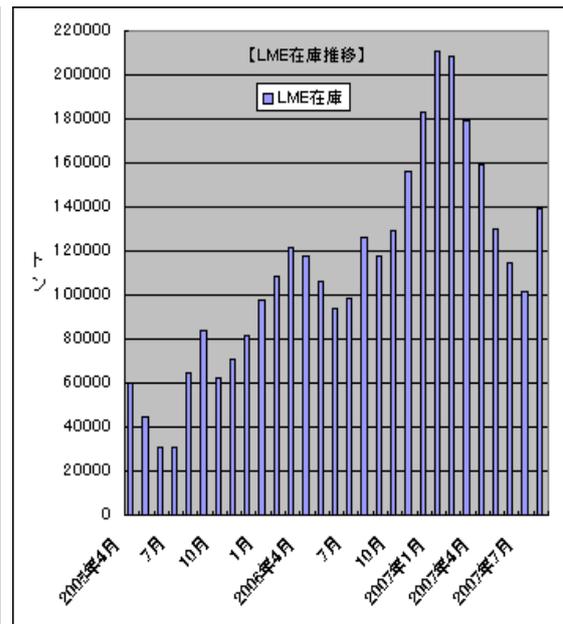
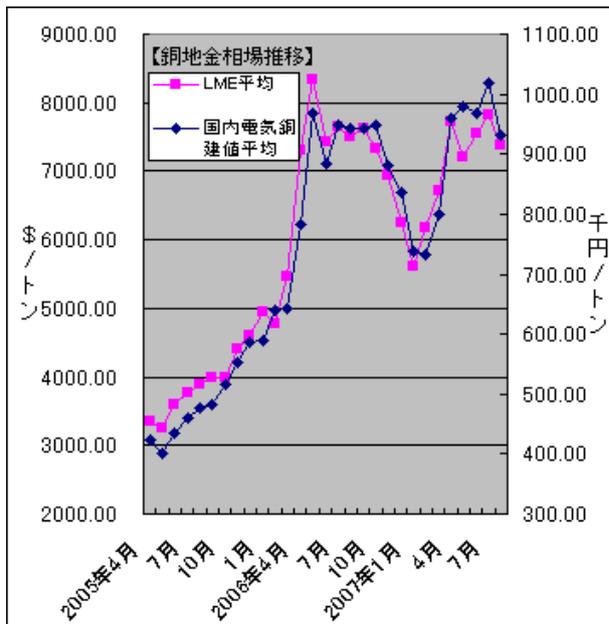
3、為替の見通し

米国の低所得者向け高金利型（サブプライム）住宅ローン問題の警戒感から海外ファンドを中心とする円の買い仕掛けが強まった。それによりユーロや英ポンド、豪ドルなどでも円買いが進み、1年2ヶ月ぶりの円高となった。この問題に対する米政府の総合対策の内容が不十分との見方から、しばらく円高・ドル安は続いた。

今後の見通しとしては、米国は年後半の利下げを0.5%下げたことにより円安・ドル高はしばらく続くように思われる。しかし金利面でのドル有利へ変化の兆しが見えてきていることから円キャリートレードには不利な状況が続き、円高・ドル安になる展開も考えられる。

4、相場の見通しと予測

07年の需給バランス予測は供給過剰になると予想されていた。しかし世界経済の成長をベースとした安定的な需要の伸びに対して、ストライキなどの不確定要素による供給の伸びの鈍化から若干の供給不足になるとの見方が強まっている。現在8000～8400ドルの間で推移しているLME相場だが、米国景気の先行き不透明感や中国需要が減速し始め、高値を促す材料は少ない。年内には急激に落ち込むことはないように思われる。来年には6500ドル近辺まで下降する可能性もある。



短期予測（1M）：LME \$ 7,300～8,500
銅建値 870～1,050 円

為替 113～118 円

中期予測（3M）：LME \$ 6,800～8,400
銅建値 820～1,050 円

為替 112～119 円

記者 工藤